

令和4年度事業報告書

社会福祉法人湘南の風

目 次

はじめに	1
基本理念・経営の原則・法人の方針	2
法人主要課題	3
利用実績	4
部門別	
法人本部／総務課	5～11
もやい	12～15
mai!えるしい	16～17
えいむ	18～19
新葉山はばたき	20～22
支援センター風	23～28
グループホームジャストサイズ	29～31
委員会・研究会	32～33

はじめに

令和4年度を終えて

令和4年度においては、新型コロナウイルスの感染拡大により、通所施設の閉鎖をはじめ、グループホームでの感染者の療養や濃厚接触者への支援等、大きな影響を受けた1年でありました。このような厳しい状況下ではありましたが、より質の高い利用者支援の提供と併せて健全な法人運営を継続していくため事業計画に掲げた主要事業を進めてまいりました。

このうち「mai!えるしい工賃向上計画の実現」につきましては、製菓の売上げ増加とともに施設外就労等による収入の増加や令和3年6月にオープンした「青い鳥」による販売手数料収入などもあり平均工賃は令和3年度を上回り、月平均1万6千円を達成することができました。引き続き、継続的な工賃向上を目指します。

「葉山はばたき移転事業」につきましては、令和4年1月に着工した移転先施設のリニューアル工事が令和4年6月末に完了いたしました。7月16日に完成披露式を開催し、その後、旧施設からの移転に向けた準備期間を経て、令和4年10月1日より「新葉山はばたき」（生活介護事業所）として新たな事業を開始することができました。今後は、これまでの「葉山はばたき」において培った利用者支援を継続しつつ、新しい建物のスケールメリットを生かし、定員の増員や新たな事業展開等について検討を重ねてまいります。

最後に「ジャストサイズの虐待防止と安定的運営に向けた取組み」につきましては、令和2年度に作成し実施してまいりました「グループホームジャストサイズ虐待防止のための改善計画」を踏襲し、各種研修会の実施、住居会議や施設長による全職員への面談を行い、職員同士が意見交換のできる機会を計画的に取り入れました。その結果、職員の権利擁護の意識は確実に醸成されてきております。しかしながら、安定的運営の根本課題である人員の不足については大きな改善には至らず、グループホーム職員の時間外勤務労働等により事業を継続しているという現状があります。ご利用者の安定した生活を支えるため、引き続き、法人内各施設による応援体制等を整備すると共に多様な人材の受入れと育成に努めます。

令和5年5月には新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが変わり、社会生活の制限は更に緩和されていくこととなります。その一方で、障がいのあるご利用者の皆さまにとって、このウイルスは未だ重症化リスクがあるとの指摘があります。引き続き、必要な感染対策を講じながら、少しずつ社会活動の幅を広げられるよう利用者支援を展開してまいります。

引き続き、地域の皆様、関係者の皆様のご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和5年5月
理事長 小林 倫

社会福祉法人湘南の風

基本理念

1. 利用者が尊厳を持って、自立できる地域社会の実現を目指します。
2. 基本的人権を守り、個人の尊厳を重視した支援を行います。
3. 地域とともに歩み、地域から信頼される法人を目指します。
4. 常に法令を遵守し、良質な福祉サービスを提供します。
5. 法人の経営基盤を強化し、経営の透明性を確保します。

経営の原則

当法人は、令和4年度事業を執行するに際し、法人定款第3条に規定する法人経営の原則を遵守します。

【定款】

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

法人の方針

1. 福祉サービスの質の向上

- ① いわゆるサービス利用困難者に対するサービス提供の実現を目指します。
- ② 個別支援計画の充実とサービス提供管理体制を構築します。
- ③ 障害者権利条約を守り、権利ある主体である個人の尊厳を重視した支援を行います。
- ④ 良質なサービス提供により利用者・家族・関係機関・地域社会との信頼関係を築きます。
- ⑤ 第三者委員によるサービスレベルの客観的な評価を受け、サービスの向上に努めます。
- ⑥ 人材育成と職員のモチベーションの向上のため、研修の充実を図ります。

2. 経営の透明性

- ① 法令遵守と権利擁護の推進により、地域社会の信頼を得るべく努めます。
- ② 第三者評価を積極的に受審し、運営事業の客観的な評価を受けます。
- ③ 事業運営の適正化を図るため、内部監査の充実を図ります。
- ④ ホームページや広報誌等により、事業内容や計算関係書類等の法人情報を公開します。

3. 経営基盤の強化と財政の健全化

- ① 中期事業計画に基づき、効率的な事業遂行と予算執行を行います。
- ② 法人の意思決定を行う中枢機関として本部機能を強化します。
- ③ 防災・減災体制を整備し、危機管理体制を強化します。
- ④ 各事業所における会計管理、予算執行管理を推進します。
- ⑤ 請求業務のチェック体制を強化し、正確で効率的な請求を行います。
- ⑥ 人材確保のため、年間を通じた職員採用計画を再構築します。

法人主要課題

1. mai!えるしい工賃向上計画の実現

① 事業概要

新規受託事業の開拓や施設外就労の機会増加等により、継続的な工賃向上の実現を図る。

② 令和4年度の取組み

昨年度持ち直した就労支援収支の改善がさらに進みました。施設外就労の機会、市役所売店「青い鳥」の運営が通年堅調であったこと、これらの取り組みからの繋がりによって得られた製菓の大口注文や販売機会もあり、製菓の収益も伸びました。上半期、下半期、年度明けと3回の手当支給を行うことができ、平均工賃月額は16,000円台（昨年13,000円台）となりました。

2. 新葉山はばたき移転事業

① 事業概要

新たな施設となる「新葉山はばたき」の建物の改修、設備の更新等を行い、移転にあたっては、利用者への影響が極力ないよう配慮して行う。

② 令和4年度の取組み

建物・設備の改修工事を6月末に完了し、7月に完成披露式・内覧会を開催しました。旧施設（葉山はばたき）からの移転準備期間を経て、10月1日より「新葉山はばたき」として開所しました。

3. ジャストサイズの虐待防止と安定的運営に向けた取組み

① 事業概要

虐待防止のための改善の取組みを継続するとともに、安定的運営に向けた取組みを着実に実施する。

② 令和4年度の取組み

令和2年度に作成した虐待防止改善計画について継続して取り組み、各種会議の運営、職員雇用サイクルの確立、個別面談等を実施しました。安定的運営については継続的な職員募集を実施し、宿泊勤務者3名の採用に繋がりました。

4. 利用者の高齢化に伴い出現する諸課題への対応

① 事業概要

利用者の高齢化に伴い出現する様々な課題への対応について、研究・検討を進めていく。

② 令和4年度の取組み

施設長会、運営会議等の際に利用者の高齢化に伴う諸問題に対する検討を行いました。引き続き職員の自主的な研究会である「高齢化支援研究会」においても、中年期以降の知的障がい者への支援の在り方と支援の研究を行います。

5. 第三者評価受審事業

① 事業概要

実施事業のサービスの質の向上を図るため、今年度はえいむが受審する。

② 令和4年度の取組み

えいむについて（公財）神奈川県介護福祉士会による福祉サービス第三者評価を受審し、法人及び同会のホームページに評価結果を公表しました。

利用実績

事業所名	定員	契約者数	年間稼働日数	延利用者数	稼働率	事業計画比較	
						延利用者数	達成率
もやい	40名	54名	248日	9,344名	94.2%	10,900名	85.7%
もやいデイサービス	20名	29名	248日	2,403名	48.4%	2,500名	96.1%
日中一時支援	5名	9名	248日	497名	40.1%	558名	89.1%
ヘルパー派遣 行動援護 移動支援		9名 53名	365日	145名 582名			
mai!えるしい	20名	19名	248日	3,757名	75.7%	4,216名	89.1%
えいむ	40名	47名	248日	8,963名	90.4%	10,071名	89.0%
新葉山はばたき	20名	26名	248日	5,692名	114.8%	5,448名	104.4%
支援センター風 特定相談 障害児相談 介護保険		290名 116名 34名	251日				
地域活動支援センター	10名	19名	248日	1,037名	41.8%	1,240名	83.6%
ジャストサイズ	44名 (+1) 令和4年8月より	44名	365日	13,183名	82.0%	13,340名	98.8%
ジャストサイズ (小坪・堀内)	小坪2名 堀内1名 (-1) 令和4年8月より	41名	365日	662名	60.4%	1,000名	66.2%

部 門 別

法人本部／総務課

1. 法令遵守

育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正を受け、育児・介護休業等に関する規則の改正を行う等、常に法令遵守を念頭に業務を行いました。

2. 中期事業計画

令和4年度から令和8年度までの新たな中期事業計画の策定及び進捗管理を行いました。各事業所の支援事業、施設・設備整備事業に関して計画年度の変更が様々な要因により必要となる場合には、理事会・評議員会において計画の修正を諮ります。

3. 連絡調整

法人内外の連絡、情報の収集・分析・発信及び理事会・評議員会、運営会議等諸会議の運営、第三者委員の事務局機能を担いました。

<理事会開催実績>

第1回理事会

開催日	令和4年5月26日(木)	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	経理規程の一部改正について		(承認)
議案第2号	法人組織規程管理規定の一部改正について		(承認)
議案第3号	「もやい」日中一時支援事業運営規程の一部改正について		(承認)
議案第4号	「えいむ」日中一時支援事業運営規程の制定について		(承認)
議案第5号	新葉山はばたき改修に伴う追加工事の契約について		(承認)
議案第6号	令和3年度事業報告及び決算について【特別多数議決】		(同意)
議案第7号	社会福祉法人湘南の風社会福祉充実計画の終了について		(承認)
議案第8号	社会福祉法人湘南の風中期事業計画の策定について		(承認)
議案第9号	令和4年度定時評議員会の招集について		(承認)
報告事項	理事長の職務執行状況の報告		

第2回理事会

開催日	令和4年7月12日(火)	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	「もやい」生活介護事業運営規定等の一部改正について		(承認)

第3回理事会(書面決議)

開催日	令和4年8月9日(火)	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	「葉山はばたき」生活介護事業運営規定の廃止について		(承認)
議案第2号	「新葉山はばたき」生活介護事業運営規定の制定について		(承認)
議案第3号	経理規程等の一部改正について		(承認)
議案第4号	定款の一部改正について		(承認)
議案第5号	決議の省略による評議員会の開催について		(承認)

第4回理事会

開催日	令和4年9月27日(火)	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	給与規定の一部改正について		(承認)
議案第2号	個人情報保護規程の全部改正について		(承認)
議案第3号	個人情報安全管理規程の制定について		(承認)

第5回理事会

開催日	令和4年12月15日(木)	出席者	理事4名 監事1名
報告事項	理事長の職務執行状況の報告/予算の執行状況		

第6回理事会

開催日	令和5年3月10日(金)	出席者	理事6名 監事2名
報告事項	評議員選任・解任委員の辞任について/理事長の辞任について 理事長の職務執行状況について/予備費の使用について		
議案第1号	法人組織管理規定等の一部改正について		(承認)
議案第2号	令和5年度給食業務委託契約について		(承認)
議案第3号	令和5年度役員等のために締結される保険契約について		(承認)
議案第4号	令和5年度事業計画(案)について		(承認)
議案第5号	令和5年度収支予算(案)について		(承認)
議案第6号	評議員会の招集について		(承認)
議案第7号	施設長等の選任について		(承認)
議案第8号	評議員選任・解任委員の選任について		(承認)
議案第9号	理事長の選定について		(承認)

<評議員会開催実績>

定時評議員会

開催日	令和4年6月17日(金)	出席者	評議員10名
報告	令和3年度事業報告について		
議案第1号	令和3年度計算書類及び財産目録の承認について		(可決)
議案第2号	社会福祉法人湘南の風社会福祉充実計画の終了について		(可決)
議案第3号	社会福祉法人湘南の風中期事業計画の策定について		(可決)
議案第4号	監事の選任について		(可決)
報告事項	予備費の使用について/ 「新葉山はばたき」完成披露式・内覧会について		

第1回臨時評議員会(書面決議)

開催日	令和4年8月26日(金)	出席者	評議員10名
議案第1号	定款の一部改正について		(可決)

第2回臨時評議員会

開催日	令和5年3月24日(金)	出席者	評議員7名
議案第1号	令和5年度事業計画(案)について		(可決)
議案第2号	令和5年度収支予算(案)について		(可決)
報告事項	予備費の使用について/令和5年度人事について/ 評議員選任・解任委員会委員の交代について/理事長の交代について		

<第三者委員施設訪問実績>

*新型コロナウイルス感染防止対策のため実施を中止しました。

4. 人事

①採用

正職員については、中途採用者6名となりました。有期契約職員の採用については募集チラシの作成及び逗子・葉山地域へのポスティング、求人情報誌への掲載及びインターネットによる採用情報の掲載を行い、法人全体で15名を採用しました。

②研修

集合研修

研修名	実施日	講師又は依頼先	内容	対象者	参加者
新採用職員研修	5月、8月、 10月、11月	法人管理者	法人の理解、障がいの理解等について	新規入職正職員	6名
障害者虐待防止・身体拘束適正化研修	3月	動画視聴（所内研修）	障がい者虐待の基礎的な理解や虐待防止のための取り組みを学ぶ	法人職員全員	—
安全運転講習会	12月	三井住友海上火災保険株式会社	交通安全に対する意思向上（オンライン実施）	運転業務従事職員、 運転員	名
接遇研修	5月	研修委員	対人サービスの基礎となる接遇マナーやビジネスマナーを学ぶ	令和元年5月以降入職 の法人職員	計30名
食事介助と嚥下機能研修	10月	葉山ハートセンター	適切な食事介助や誤嚥防止、口腔ケアについて （オンライン実施）	法人職員全員	—
感染症対策研修	12月	動画視聴（所内研修）	新型コロナウイルス感染症に対する具体的な対策 について理解を深める	法人職員全員	—
介護技術研修	11月	神奈川県介護福祉士会	介助の基本、人間の自然な動きや業務内の困った 事例について	令和元年5月以降入職 の法人職員	20名
感染症対策研修	12月	動画視聴（所内研修）	新型コロナウイルス感染症に対する具体的な対策 について理解を深める	法人職員全員	—
メンタルヘルス研修	2月	動画視聴（所内研修）	メンタルヘルスケアの必要性を理解し、ストレス への具体的な対策について理解を深める	法人職員全員	—
コンプライアンス研修	通年	教材を用いた所内研修	社会福祉施設で起きる具体的事例を用いた NG行動への気づきとグループワーク	法人職員全員	—
階層別研修①	通年	法人管理者	支援の基礎となる基本的な知識の習得する	1～3年目正職員	14名
階層別研修②	通年	法人管理者	各事業所の事例を通して具体的な支援知識を深め る	4～9年目正職員	11名
階層別研修③	通年	法人管理者	事業所の目的を達成させるために、チームで課題 解決に取り組める人材を育成する	10年目以上、主査、 サビ管、業務リーダー	22名
中間事業報告会	11/11	各事業所職員	令和4年度上半期の事業報告（オンライン実施）	法人正職員	50名

派遣研修

研修名	実施日	主催	内容	対象者	参加者
サービス管理責任者更新研修	7/6、9/27	かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	サービス管理責任者	2名
サービス管理責任者基礎研修	9/7	かながわ福祉サービス振興会	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	実務経験年数充足者	1名
サービス管理責任者補足研修	1/20-30	かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	実務経験年数充足者	2名
相談支援従事者初任者研修	—	—	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の技術を習得し、相談支援業務に携われる人材を育成する	相談支援補助従事者 ※当年度該当者無	0名
相談支援従事者現任者研修	11/18-1/16	神奈川県	相談支援に従事する者が、障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	相談支援従事者	3名
強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	10/27-28、11/8-9、11/29-30、12/1-2	神奈川県	強度行動障害を有する者に対し、適切な支援を行う職員の人材育成を目的にする	強行支援者	4名
強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	9/15-16、2/2-3	神奈川県	強度行動障害を有する者に対し、適切な支援計画を作成することが可能な職員の人材育成を目的にする	強行基礎研修修了者	2名
社会福祉士実習指導者講習会	6/18、9/13-14	神奈川県社会福祉士会	相談援助実習指導者の養成を図る	社会福祉士	2名
介護に関する入門的研修基礎講座	8/22-10/7	神奈川県社会福祉協議会	介護の仕事に携わる中で必要な知識・態度を学び、介護職員として求められる専門性の基盤づくりを目的とする	新任正職員	2名

新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会	10/5、11/11	神奈川県社会福祉協議会	分野・種別を超えて同じ階層の仲間と共に福祉従事者としての意識を高め、専門職として学び続ける姿勢をつくる	初任正職員	3名
中堅職員合同交流・研修会	8/24、9/30	神奈川県社会福祉協議会	これまでの仕事の振り返りや同じ階層の仲間との交流を通じて中堅職員としての目標をつくる	中堅正職員	4名
新任職員キャリアパス対応生涯研修（Bコース）	9/22、29	神奈川県社会福祉協議会	社会福祉従事者の基本姿勢や新任職員の役割を学び、従事者としての将来像を	新任正職員（社会人経験者）	3名
チームリーダー職員キャリアパス対応生涯研修	6/22、27	神奈川県社会福祉協議会	管理職員としての役割を理解し、キャリアアップの方向性及び組織の発展、人材育成に必要な知識及び技術の向上を図る	管理者	1名
管理職員キャリアパス対応生涯研修	10/13、19	神奈川県社会福祉協議会	管理職員としての役割を理解し、キャリアアップの方向性及び組織の発展、人材育成に必要な知識及び技術の向上を図る	管理者	1名
職場研修担当者研修会	2/20-22	全国社会福祉協議会 中央福祉学院	職場研修の運営実務に関する知識、及び技術の習得を図る	研修担当職員	3名
ふくしの保険セミナー	2/28	損保ジャパン株式会社 医療・福祉開発部第二課	今、社会福祉法人に求められるリストとは社会福祉法人を取り巻くリスクの解説とハラスメント防止への取り組みの実践（オンライン）	管理者	1名
安全運転管理者講習会	2/6	神奈川県警察	自動車の安全な運転に必要な知識、運転従事者への安全教育に必要な知識及び技能、安全運転に必要な知識及び技能	安全運転管理者	3名

視察研修

研修名	実施日	視察先	目的	対象者	参加者
自主県外視察研修	中止	—	—	—	—

③職員育成

職員については、年度当初に自己申告書を作成し、職員育成指針に基づく目標設定等を行いました。下半期には目標の振り返り、自己評価、管理者の評価・面談を行いました。有期契約職員については、新年度に向けた契約更新の意思確認も含め、年末から年始にかけて意向調査を実施しました。

④給与

給与、賞与、退職金等の計算、社会保険加入手続き等を行いました。

⑤その他

国家資格取得に係る受験費用を法人から支給する制度を令和元年度から設けました。当年度、国家資格取得者への報奨金支給はありませんでした。

⑥福利厚生

例年職員厚生団体への支援・補助を行っておりますが、今年度につきましても引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、事業実施を見送ったため補助金の交付は行いませんでした。

5. 広報

法人会報を年4回発行しました。情報開示については、法人ホームページでの定款、財務諸表の公開をはじめ、全国社会福祉法人経営者協議会等の関連団体の専用サイトなどを活用し、経営の透明性を担保する情報開示に努めました。

6. 防災

緊急連絡網を年度当初及び入退職の度に更新し、有事を想定した緊急連絡テストを実施しました。

7. 収入

新型コロナウイルスの影響のため、臨時休業や利用自粛により令和2年度、3年度に引き続き各事業所の稼働率が例年よりも低くなりました。障害福祉サービス等の事業収入は、前年度も新型コロナウイルスの影響がありましたので正確な比較は難しいですが、主に新規加算の取得やグループホームの稼働率増加があり、前年度と比較して約3,060万円の増収となりました。

8. 運営管理出納事務

毎月行われる運営会議にて各施設の稼働率・資金収支の推移を確認し、問題点の早期発見及び問題解決の話し合いを随時行いました。

9. 委託業務出納事務

計画のとおり執行しました。

10. 施設整備出納事務

前々年度に購入した葉山町堀内の新葉山はばたき施設改修工事（約7,800万円）を昨年度から引き続き着手し、6月に基本部分の改修工事終了し10月より新葉山はばたきを開所しました。その後植栽部分の舗装工事（約215万円）を行い、車輛駐車スペースを拡張しました。もやいデイサービスにおいて使用頻度の少なかった和室を事務所として活用するために改修工事（約）を行いました。その他各事業所において経年劣化による修繕や細かい整備を行いました。

もやい（生活介護／日中一時支援/行動援護・移動支援）

1. 支援事業

(1) もやい

- ①男女人数 男性 31 名 女性 23 名
- ②年齢構成 19 歳～62 歳（平均年齢 39.1 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	4	16	9	25	54

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	27	重複障がい（知的、身体）	25
身体障がい	1	重複障がい（身体、精神）	1
		合計	54

⑤入退所の状況

新規利用者 2 名

退所者 3 名（施設入所：2 名、逝去：1 名）

⑥支援の内容

職員の育成として、月に一度の職員ミーティングにて施設長・副施設長・主査等を講師とし、知的障がい者支援の基本から専門的な理論等について学ぶ取り組みを行いました。また、各グループの具体的な課題解決を目的に月 2 回、継続的なミーティングを実施しました。その結果、利用者の特性に合わせた環境の整備が進みました。一方で経験年数が少ない職員の配置の比率が高いため、今後更なる知識や技術の向上を目指します。

利用者の高齢化、障がいの重度化への対策として、提供する活動内容等の見直しや対応方法の変更を行いました。重複障害（知的・身体）の方を中心にスヌーズレンやムーブメント・リズム体操等の活動を提供し、利用者の中には能動的な動作が増加した方が見られています。今後も利用者のニーズに即した支援を展開してまいります。

(2) もやいデイサービス

- ①男女人数 男性 19 名 女性 10 名
- ②年齢構成 47 歳～89 歳（平均年齢 69 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	5	11	4	6	3	29

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	2	重複障がい（知的、精神）	1
身体障がい	21	重複障がい（身体、精神）	2
精神障がい	3	合計	29

⑤入退所の状況

新規利用者 0 名

退所者 1 名

⑥支援の内容

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、多くの外出活動を中止としました。室内での活動の取り組みについては、DVDやインターネットを使用した体操や頭を使う脳トレなどのゲーム、ご本人の趣向に応じた個別学習（計算、般若心経）、入浴（希望者）を提供してきました。その中でも今年度においては筋力維持等の運動に重点を置き、一人ひとりのニーズに応じた運動メニューを用意し取り組みを実施しました。利用者の方々には目的を十分に理解し積極的に参加する姿が見られました。

利用状況については、新型コロナウイルスの影響に加え、ご本人及び同居家族の高齢化に伴い、高齢者施設等に入居されるケースやショートステイの利用増加等の理由により、平均稼働率は、年度当初の計画を下回りました。引き続き利用者のニーズの把握及び新規にご利用頂くための取り組みを行います。

(3) 日中一時支援

①男女人数 男性7名 女性2名

②年齢構成 10歳～38歳（成人2名を含む）

③基本報酬区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	7	1	0	1	9

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	8	未判定	1
		合計	9

⑤入退所の状況

新規利用者 0名

退所者 1名（他事業所利用）

⑥支援の内容

利用する児童・生徒の社会適応の観点から一人ひとりの障がい特性に応じた個別スケジュールによる、遊びを通じた社会的ルールの学習等に取り組みました。学習や遊びでは、自分で選んだり自分で決定する取り組みを通じて児童・生徒の成長を確認することができました。

(4) ヘルパー派遣事業（行動援護・移動支援）

○行動援護

① 契約者数 男性7名 女性2名 （合計9名）

②障害支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	2	7	9

② 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
延利用者数	14	16	10	13	10	12	8
延時間数	62.0	71.0	42.0	42.5	27.5	56.5	21.5
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延利用者数	12	12	13	11	14	145	
延時間数	53.0	44.5	86.5	37.0	70.5	614.5	

○移動支援

①契約者数 男性 26名 女性 27名 (合計 53名)

身体介護有：41名 身体介護無：12名

②月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
延利用者数	58	61	54	59	32	52	47
延時間数	328.5	338.5	292.0	327.5	185.5	319.0	270.0
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延利用者数	45	37	47	45	45	582	
延時間数	261.5	220.5	275.5	260.5	275.5	3,354.5	

③支援の内容

昨年度に引き続き感染対策を講じてのサービス提供を行いました。マスク着用が可能な利用者については、公共交通機関等を利用した外出、イベント等の参加や飲食店での飲食も可能になり、コロナ禍前に近づいた支援が提供できました。

行動障害等特別な配慮が必要な利用者に対しては、ご希望により、他者と接触が少ない福祉有償運送車両を使用した外出等を実施しました。しかしその一方、マスクの着用が困難な方の中には、感染予防の観点からサービスを断念する方も多くみられました。現在、マスクの着用は個人の判断が基本とされており、令和5年5月から新型コロナウイルスの感染症法の位置づけも変わり、社会生活上の制限は緩和されていくことが想定されます。次年度においては、十分な感染対策を講じながら、これまでサービスを断念していたご利用者へのサービスの再開を目指します。

2. 施設管理事業

全稼働日のトイレ清掃を業者委託することで業務の効率化に役立ちました。その他、電気設備、消防設備、エレベーター等の定期的な保守管理を行うことで安全な環境を維持しました。

3. 施設整備事業

もやいデイサービスにおいて、利用者の使用頻度の少なかった和室を事務所として活用するために改修工事を行いました。

4. 研修事業

実施日	内容	参加者
7/24-8/31	てんかん基礎講座（オンデマンド）	藤原
7/6	神奈川県サービス管理責任者更新研修	植草
9/22	支援スタッフ部会研修	吉田
9/22、29	初任者キャリアパス対応生涯研修（Bコース）	小野、稲山
10/5	新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会（前期）	稲山
10/14	新任職員人権研修	高橋
1/27-2/28	障害者虐待防止マネジャー研修会（オンデマンド）	大房、山崎
10/19、22	初任者キャリアパス対応生涯研修課程	吉田
11/11	新任福祉施設等職員合同交流・研修会（後期）	小野
2/20-22	職場研修担当者研修会	山崎

- ・所内集合研修として年間計画を策定し、月に1回、正職員と非常勤職員（支援員）が一堂に会し、支援の基礎から応用を学ぶ機会を設定しました。研修の方法はテーマにより講義・グループワーク・演習としました。グループワークや演習は実際の事例を用いて、獲得した知識や技術を早期に支援現場に反映するよう工夫しました。
- ・月に1回の集合研修に加え、サポーターズカレッジのウェブ講義の視聴を行う研修会を下半期から月に1回実施しました。所属するグループ毎にテーマを設け、該当するコンテンツの視聴を行いました。

5. 防災事業

- ①訓練 火災訓練を1回（5月）、津波訓練（屋上避難／小坪分署消防立ち合い訓練）を1回（3月）実施しました。市内一斉大津波避難訓練（11月）に参加しました。
- ②備品 使用期限切れの非常食の入替えを実施しました。

6. 総括

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、事業の閉鎖等大変大きな影響を受けた1年でありましたが、利用者の安定した活動提供を第一に考え、必要な感染対策を講じながら、室内活動を中心にサービスの提供にあたりました。

質の良い支援を提供するために、職員が利用者個々を正しく理解し、理論に基づき支援力を向上することを目指し取組みを実施してきました。毎月の全職員参加のミーティングを職員の人材育成の場とし、知識と技術の獲得や職員間の意見交換の場としてグループワークと講義を中心に組みました。結果として、正職員と非常勤職員共に、支援の目的や意図をしっかりと理解しながら支援に取り組み、利用者への支援方法や支援環境に改善が見られる等その効果が確認されました。

一方で昨今の人材不足等の影響を受け、年度途中の職員採用や人事異動等により、全体的に経験年数が少なめの職員集団となっています。職員の知識や経験に応じたきめの細かいOJTの実践が今後の課題です。

mai!えるしい（就労継続支援B型）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 13 名 女性 6 名
②年齢構成 23 歳～65 歳（平均年齢 44.8 歳）
③障害支援区分

③	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	4	0	5	6	4	0	0	19

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	16	重複障がい（知的、精神）	1
重複障がい（知的、身体）	2	精神障がい	3
		合計	19

⑤入退所の状況

- 新規利用者 1 名
退所者 1 名（他所利用）

⑥支援の内容

前年度持ち直した自主製品による収益ですが、本年度はさらに逗子市役所売店「青い鳥」での販売や施設外就労から派生した販売機会や、SNSを通じた顧客、3 p m（さんじ）さんを通じた大口の注文を受けることができ、129%の増収でした。また、施設外就労の本格稼働、軽作業受注、工房を使用した受託製造・受託加工も増え、全体で昨年比 130%の増収となりました。

昨年度に引き続き 45 歳以上の利用者を対象に高齢に伴う心身機能や行動についてのアセスメントを行いました。比較的機能保持がなされている結果となりましたが、身体的な負担の少ない作業の確保をすることで就労継続することができるよう取り組みます。

個別支援計画に基づき、利用者が自ら「見てわかる」ことで自ら「動くことができる」ことを目指した掲示や作業指示を行いました。身体的状況を鑑みた上、相談支援と連携し、法人内の他事業所の利用に移行した利用者がありました。

2. 施設管理事業

通年で 3 回の手当支給が実現し、平均支給工賃月額 16,600 円（令和 5 年 4 月 30 日現在）となり、全国の平均工賃月額（16,500 円）に届く結果となりました。

昨年に引き続き、施設外就労先や取引先が増えたことにより対外的な交渉や報告連絡も多くなりましたが、職業指導員を中心に対外的業務を遂行しました。

3. 施設整備事業

経年劣化により故障した 2 階エントランスの空調設備を更新しました。市役所売店「青い鳥」の店舗が安定的に運営され、令和 5 年 1 月よりテイクアウト形式でのコーヒー販売も開始されました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
7/26	苦情解決研修（基礎編）	橘
7/29	障害者事業所基本研修会－食品衛生業を中心に	橘
11/25	関東社会就労センター協議会研究会 2022	橘
1/26-27	全国生産活動・就労支援部会職員研修	橘
2/7	苦情解決研修（実践編）	橘

【所内研修】

実施日	内容	参加者
4/25-29	虐待防止の基本と実践	8名
5/16-19	ハラスメントの理解と防止について	3名
5/30-6/3	てんかんについて	7名
6/13-14	OJTの効果的な実践方法	3名
6/20-24	高齢化に伴う変化と身体介護	7名
7/5-6	障がいのある人の働くを考える	7名
2/6-7	主体性・自立性を高める支援	4名
2/13-17	大規模災害と福祉施設	5名
3/3	嘔吐物処理研修	8名

5. 防災事業

- ① 支援センター風と合同で、火災避難訓練 1 回、津波避難訓練 1 回を行いました。
- ② 防災備品の点検・入替を行いました。

6. 工賃支払状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
金額	199,080	189,040	216,640	189,360	165,240	207,160	498,390
人数	19	19	19	19	19	19	19
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
金額	202,080	156,880	162,520	161,240	1,445,840	3,793,440円	
人数	19	19	19	19	19	228名	
					平均	16,637円	

※週1～3回、半日利用の利用者を含む。※10月、3月は期末手当を含む。

7. 総括

就労支援収支については自主製品販売、受託製造、受託加工全ての収入が増加しました。施設外就労では企業で働く際の就業準備性を利用者・職員も学ぶことができおり、利用者の就業能力の向上にも寄与しました。平均工賃は¥16,600（昨年比122%）となり、全国平均に届きました。

一方グループホーム利用者が全体の1/3であること、平均年齢が40代中盤になっていることから利用者の心身の状況をご家庭、グループホーム、医療機関、相談支援事業所とも連携する必要性が高まっています。昨年に引き続き、以下の3点の支援ニーズ（①就労継続、ステップアップを目標とした訓練的支援②人的交流、社会参加を目的とした社会的活動・生産活動③機能低下防止のための活動）に対応すべく支援の内容を推進してまいります。

えいむ（生活介護）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 42 名 女性 5 名
②年齢構成 18 歳～52 歳（平均年齢 35.7 歳）
③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	2	17	18	10	47

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	45	重複障がい（知的、精神）	1
重複障がい（知的、身体）	1	合計	47

⑤入退所の状況

- 新規利用者 1 名
退所者 2 名

⑥支援の内容

利用者一人ひとりの現在の能力を再度確認するため、適宜アセスメントを実施しました。アセスメントを通して見えてきた現在の状態像と年齢を鑑みて、提供する活動の再編を行いました。

また、今までえいむの中で行ってきた PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)や、学習で培ったスキルの実践の場として、買い物等の外出機会を実施しました。地域の方と実際に絵カードを交換して要求物を得たり、買い物時のやり取りを行う中で、普段えいむの中で練習している能力を発揮する機会となりました。

作業活動に関しては、銅線作業の他、軽作業や苗木栽培等の作業を細分化し、利用者の方への提供方法を見直しました。作業を細かく工程分けし、個々人の興味や能力に合わせて提供することで、参加する活動の幅が広がりました。

今後も、各利用者のニーズに応じた活動提供について検討を行います。

2. 施設管理事業

5 S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動に取り組み、施設内外の不用品の廃棄等、環境整備を行いました。

（公財）神奈川県介護福祉士会による福祉サービス第三者評価を受審しました。自己評価の後、令和 4 年 11 月に訪問調査を受け、令和 5 年 3 月に結果が公表されています。

3. 施設整備事業

施設の老朽化及び備品の経年劣化に伴い、水回りや扉等の修繕を行いました。その他、効果的な支援を行う上で、適宜、各利用者の障がい特性に応じた支援環境の整備を行いました。

4. 研修事業

実施日	内容	参加者
6/23	逗子市・葉山町基幹相談支援センター主催研修「高齢障がい者支援事例報告・意見交換会」	熊岡
9/6	逗子市・葉山町基幹相談支援センター主催研修「私が見つけたにこり・ほっと座談会」	角田
9/7	神奈川県サービス管理責任者基礎研修	鈴木
9/12	中堅職員合同交流会・研修会	熊岡
10/5	新人福祉・介護施設職員合同交流会・研修会	北邨
10/13、19	管理職員キャリアパス対応生涯研修	斗舂
11/29-30	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	浅井
1/20-30	神奈川県サービス管理責任者補足研修	鈴木
2/6	安全運転管理者講習会	藤代
2/9	逗子市・葉山町基幹相談支援センター主催研修「権利擁護虐待防止研修」	池谷
2/20-22	職場研修担当者研修会	藤代
2/20-22	自閉スペクトラム症・自閉症スペクトラム障害支援者専門研修	鈴木

・所内集合研修として年間計画を策定し、月に1回、正職員と非常勤職員(支援員)向けに、利用者支援の知識や技術、権利擁護等の研修を実施しました。研修形式は、講義とグループワークをあわせたものとし、研修で得た知識等を即支援現場で活かせるものとなるよう行いました。

5. 防災事業

- ①訓練 火災を想定した総合訓練(消火・通報・避難)を年2回実施しました。緊急連絡網の訓練について年1回実施しました。
- ②備品 使用期限切れの非常食の入替えを行いました。

6. 総括

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で11月期、12月期合わせて12日間の臨時休業、その他の月でも利用の自粛が複数名あり、目標の稼働率の達成には至りませんでした。

支援事業では、現在の利用者の能力の再確認や、提供している活動の再編を行うことで、利用者一人ひとりの年齢や興味・関心に即した活動提供を目指しました。今後も、若年層の方には作業を中心とした活動、高齢期にさしかかっている方には、運動や余暇の提供等、個々人のライフステージに沿った活動提供を目指すとともに、えいむで培った能力を地域で発揮する機会に関しても検討していきます。

また、年間を通して、利用者支援に関する知識・技術の習得と向上を目的とした所内研修を計画的に実施するとともに、適宜ケース検討会を行いました。研修等で学んだ内容を日々の利用者支援で実践することで、利用者の様子に変化が見られたケースもあり、職員のモチベーション向上にも繋がりました。引き続き、計画的な研修の場を通して支援の質の向上を目指します。

新葉山はばたき（生活介護）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 14 名 女性 12 名
- ②年齢構成 19 歳～73 歳（平均年齢 42.8 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	3	2	7	9	5	26

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	17	重複障がい（知的、精神）	0
重複障がい（知的、身体）	9	合計	26

⑤入退所の状況

- 新規利用者 3 名
- 退所者 1 名

⑥支援の内容

生涯発達支援の考え方にに基づき、利用者個々に重点支援領域を設定し個別支援計画を策定しました。個別支援計画プロセスについて、法令に基づくプロセス管理を行うべくサービス管理責任者を中心に再整備しました。

活動提供については、作業活動以外に利用者の障がい特性ならびに年齢層や利用者個々のニーズに応じた個別の自立課題や身体機能を維持するためのプログラム、余暇活動の充実化を図りました。

支援環境については、利用者の障がい特性に応じた環境整備を図り、効果的な支援が展開できるようレイアウト変更及び自立課題等、備品の入替え等を実施しました。

また、新葉山はばたき移転に伴い、各利用者の障がい特性に応じたグループ編成ならびに支援環境の再構築を行ないました。

2. 施設管理事業

- ①「葉山町立の障害者支援施設葉山はばたきの管理に関する協定書」に基づき、指定管理期間中、葉山町への定期的な業務報告並びに施設管理を行いました。
- ②法令に基づく消防用設備点検、エレベーター保守点検、害虫駆除防除については専門業者に委託し実施しました。

3. 施設整備事業

新葉山はばたきへの移転については、令和 4 年 6 月に改修工事が完了・引き渡しを終了し、7 月に完成披露式及び内覧会の実施を経て、神奈川県への事業廃止届、新規指定届等を行ないました。

指定管理施設である「葉山はばたき」の返還に向けた諸手続きについては、葉山町担当課と協議しながら進めました。10 月の移転後、利用者の方に大きな混乱が生じないよう、各利用者の障がい特性に応じたグループ編成ならびに支援環境の再構築を行ない、葉山はばたきからの備品の搬出及び新葉山はばたきでの備品設置等、移転に伴う引越し作業は職員のみで行い、令和 4 年 10 月 3 日より移転先にて本格稼働となりました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
5/7-8	PECS レベル1 ワークショップ	岡本
6/8	第1回神奈川県指定障害福祉サービス指導講習会	萩原
6/14-15	強度行動障害対策事業公開講座	岩戸
6/17	普通救命講習会	守谷
6/23	逗子市・葉山町基幹相談支援センター主催研修会	原田
7/26	苦情解決研修会	原田
7/27	強度行動障害予防的支援研修	守谷
9/13-14	社会福祉士実習指導者講習会	岡本
10/30	葉山児童デイ結主催研修会	萩原
10/27-28	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	岡本
11/24-25、12/1-2	PECS レベル1 ワークショップ	菅原
12/1-2	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	守谷
12/8	障害福祉施設協議会新任職員研修会	菅原
1/20	神奈川県障害者虐待防止・権利擁護研修	岡本
1/20、30	神奈川県サービス管理責任者補足研修	原田
2/2-3	神奈川県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	岡本
2/3	施設内虐待防止と利用者からの暴力への対応	萩原
2/6	安全運転管理者等講習会	萩原
2/20-21	職場研修担当者研修会	岡本

【所内研修】（映像配信研修）

実施日	内容	参加者
5月期	さまざまな支援上の記録の書き方	10名
6月期	相談支援事業の支援と役割	10名
7月期	知っておきたい障がい者支援関連制度	10名
8月期	福祉施設の個人情報管理	11名
9月期	ストレスマネジメント	11名
10月期	障害者虐待防止	11名
11月期	新型コロナウイルスと障がい者支援のこれから	11名
12月期	お口の中をのぞいてみましょう！～なぜ口腔ケアが必要なの？～	11名
1月期	自閉症	11名
2月期	衝動性のコントロールについて	11名
3月期	個別支援計画をより深めるために	11名

5. 防災事業

- ①訓練 火災を想定した総合訓練(1回)を実施した他、職員の緊急時連絡訓練を2回実施しました。
- ②備品 災害用非常食の入替えを行いました。

6. 総括

支援事業では生涯発達支援の考え方を基本とし、各利用者の方の個別支援計画を策定した上で個別に活動提供を行いました。障がい特性や年齢層が多岐に亘るため今後、多様化する個々のニーズに応じた支援・活動環境を整備すると共に若年層の利用者の方への作業プログラムの拡充や青年期、

高齢期の利用者の方への身体機能及び認知機能の維持を目的とした学習・余暇活動プログラムの充実を図ります。

個別支援計画プロセスについては法令に基づくプロセス管理を行なうべくサービス管理責任者を中心に支援進捗上の課題等を検証し、利用者の方のニーズに基づく個別支援計画策定を含め効果的な支援が展開できるよう支援者同士がチームとして支援を行えるよう、利用者の方の状態像を関係機関とも連携を図りながら共有し、具体的な支援方法の統一化を図ります。

施設管理事業では、法令に基づく消防用設備点検の他、利用者の方が快適に過ごすことができるよう各専門業者に委託し、害虫駆除防除等を行いました。

施設整備事業では、新葉山はばたきへの移転に向けて、神奈川県への事業廃止届、新規指定等、必要な諸手続きを行ない、葉山町担当課とも連携を図りながら指定管理施設である「葉山はばたき」の返還の諸手続き等も行ないました。

研修事業では、新型コロナウイルス感染症の影響で派遣研修が限られる中、各職員の支援における基本的な知識・技術を習得すべく、可能な限り派遣研修への参加を行う他、研修計画を策定し事業所内研修を実施しました。次年度以降も各職員が学びの機会を確保しながら質の高い利用者支援を実践できるよう人材育成を充実します。

事業運営全般として今年度も新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じながらのサービス提供となりました。また年度内の事業所移転準備を経て、10月と11月にそれぞれ新規利用者1名ずつの受け入れを開始し、年間の稼働率も114%と安定した事業運営を行なうことができました。次年度以降も多様化する本人及び家族ニーズに対応すべく関係機関と連携しながら職員個々の支援の質の向上を図るべく事業を運営します。

支援センター風：逗子市委託相談支援及び葉山町委託相談支援事業（逗子市・葉山町委託）

1. 支援事業

①相談支援の状況

逗子市：49名 1,049件 葉山町：16名 553件
両地域合わせて相談員員数10名 常勤換算6.4人 昨年比±0人

②活動の状況

訪問、同行、電話相談、個別支援会議、関係機関とのサービス調整及びサービス等利用計画に係る事務を行いました。

2. 総括

下欄の指定特定相談支援事業、指定障害児相談事業と一体的に運営しています。
相談件数については委託相談のみの集計となりました。サービス利用希望があるものの、利用に至らない方への支援、高齢の母親との世帯支援、一人暮らしの方のための生活全般的な支援、就労されている方の生活面での支援など多岐に及びました。

支援センター風：指定計画相談支援及び指定障害児相談支援事業（逗子市指定）

1. 支援事業

①計画作成件数

逗子市民：494件 葉山町民：360件 横須賀市民：2件 鎌倉市民：2件 計858件
昨年比：+50件
計画相談利用人数：290名（-2名）
障害児相談利用人数：116名（+3名）
共に令和5年3月時点での利用者数

②活動の状況

利用者1名につき、アセスメント、サービス等利用計画案の作成、個別支援会議の開催、サービス等利用計画作成及びモニタリング作成がサイクルで行われており、これらに付随して面接、訪問、連絡調整及び申請等援助を実施しました。兄弟ともに支援が必要なケース、親も子ども支援が必要なケース、介護保険との併用ケースなど障害福祉サービスだけでは解決できないニーズがあるケースの増加傾向は続いています。令和5年2月に逗子市による実地指導の機会がありました。

2. 総括

計画作成件数（モニタリング含む）は前年度比50件増となりました。利用人数が増えたことが主な要因です。新規利用の内、児童のケースの増加が顕著です。障害福祉、児童福祉サービスだけでは支援ニーズに対応できないケースについては介護保険サービスや生活困窮者自立支援制度、成年後見人、保健医療機関、教育機関、企業、就労支援機関、行政機関等様々な分野の機関との連携が年々増えています。家庭丸ごと支援対象である複雑化する支援ニーズに対応すべく、相談員一人ひとりの資質、スキルの向上がさらに求められています。年間4回の所内事例検討会に加え、市町で行われる事例検討会への出席、県、圏域単位で行われる研修会に積極的に出席するなどの機会も昨年に比べ増加しました。

逗子市（指定権者）による実地指導が行われ、支給決定後の計画立案遅れとなっているケースが散

見されることを指摘されました。以後、計画立案を鋭意取り組み、遅れは減少しています。

支援センター風：逗子市基幹相談支援センター事業（逗子市委託）

1. 支援事業

①総合・専門的な相談支援

市内の支援機関からの要請によって困難事例へのスーパーバイズや多機関連携会議、制度活用の相談、地域資源についての問い合わせ相談に応じました。

②地域の相談支援体制強化の取り組み

市内の相談支援機関との連絡会の開催（12回、内オンライン1回）、事例検討会（4回）、勉強会（1回）を行いました。

③その他、高齢福祉と障害福祉お互いを分かり合う事例検討会、医療的ケアを要する方の地域生活事例を用いた研修、権利擁護・虐待防止に係る研修、地域移行定着に係る事例を用いた研修、地域の事業所連絡会を開催しました。

2. 総括

前年度に開催し、好評を得た研修や継続的な取り組みが求められる事例検討会等においては今年度も同様に実施しました。研修会についてはいずれも全県的な課題に対応したテーマを抽出しています。会合、研修共に対面式で開催できる機会が増し、会の活性は戻りつつあります。

これまで、葉山町基幹相談支援センターとの共催で研修を企画してきましたが、地域移行定着に係る事例検討は地域の捉え方が広がるため、三浦市基幹相談支援センターとも協働しました。

支援センター風：葉山町基幹相談支援センター事業（葉山町委託）

1. 支援事業

①総合・専門的な相談支援の実施

前年度に引き続き、町内の支援機関からの相談に応じました。介護保険との併用、他市からの移住、高齢化した障害ある方のサービス、障害福祉サービス制度運用についての相談が主な相談内容でした。地域の関係機関との連絡会の開催は行いましたが、事業所訪問へのアウトリーチを通じた地域課題の抽出や機関支援は継続的な課題となっています。

②地域の相談支援体制強化の取り組み

自立支援協議会と一体的な運営であり、毎月の相談支援事業所とのネットワーク会議（書面会議1回）とその場を使った事例検討の機会を年5回持ちました。研修の機会は逗子市基幹相談支援センターや三浦市基幹相談支援センターと協働して持ち、高齢分野との連携、地域移行定着、医療的ケア、権利擁護虐待防止がテーマとなりました。

③葉山町自立支援協議会の企画運営

全体会議	運営会議	相談支援ネットワーク委員会	地域生活ネットワーク委員会	その他の取り組み
8/4、3/28	6/18、3/3	毎月（内1回書面）	6/20、10/20、11/14	11/17～

2. 総括

相談支援ネットワーク委員会内において地域の困難ケースをグループスーパービジョンの手法を用いた共に検討する場は継続的に持たれ、検討するケースも多岐に渡る様になりました。昨年度まで

の取り組みとして、情報サイトの検討が行われてきましたが、本年度は基幹相談支援センターホームページ内に「見える、つながる～葉山福祉情報サイト～」が立ち上がりました。地域の関係機関の連絡会が開催されましたが、個別の機関訪問を行い、更に基幹相談支援センターとしての機能が果たせるよう取り組みます。

支援センター風：逗子市地域活動支援センター（逗子市委託）

1. 支援事業

逗子市在住の各種障害者手帳保持者を対象として学習、作業活動等を提供する事業です。また、制度のはざま事業として障害者手帳を所持していない方の受入れも行います。利用相談者、体験利用者はありましたが利用には至りませんでした。入退所に変化はありません。

① 年齢構成 23歳～64歳

② 利用者の状況

	人数		人数
知的障がい	13	精神障がい	4
発達障害	1	高次脳機能障害	1
		合計	19

③ 入退所の状況

新規利用者 0名

退所者 0名

2. 総括

主査1名、指導員2名、相談員兼務4名で常勤換算2名の配置で実施しました。就労されている方の就労以外の社会活動の場、社会的接点が長らく無かった方の居場所、重複障害（知的・精神）による適合サービスが無い方の日中活動の場など地域の機関での受入れが困難な方に利用ニーズがある傾向は継続しています。1名の利用者が精神科病院の入退院を繰り返しており、安定利用に至っていません。1日の利用平均人数は4.2名と昨年比で0.2ポイント増となっています。

複雑な支援ニーズをお持ちの方の利用に特化した支援の場になりつつあることから、利用者の特性、置かれた環境を適切に読み解き、支援の根拠とするためのアセスメント方法を見直し、支援の統一に努めました。年1回ではありましたが、所内での事例検討会も開催しました。

支援センター風：逗子市自立支援会議運営事業（逗子市委託）

1. 支援事業

全体会議	運営会議	専門会議（権利擁護）	専門会議（就労支援）	定例会議
8/5、2/16	6/30、1/10	10/19、1/18	7/7、12/8	毎月

※定例会議はオンライン会議1回を含みます。

各会議に係る議事等の検討、資料作成、会議開催に関する調整と周知及び議事録の作成を行いました。

2. 総括

1回のオンライン会議を除き、対面での会議が可能となりました。議論は活性化の方向です。一昨年度より設置が始まった地域生活支援拠点等の進捗状況の確認を含め地域課題の協議を継続しています。これまでの取り組みの中から、権利擁護については市内に様々な機会や会合が開催されるよ

うになったため、発展的解消を行い次年度には子どもの支援を中心に据えた専門部会を立ち上げる方針です。

引き続き基幹相談支援センター連絡会と連携し抽出された課題に対応すべく、地域の関係機関との連携機会を継続的に持てるように臨みます。

支援センター風：横須賀・三浦障害保健福祉圏域発達障害支援体制整備事業（神奈川県委託）

1. 支援事業

業務内容としては①地域の関係機関からの支援依頼に応じたコンサルテーション②支援困難ケース等はかながわA（神奈川県発達障害支援センター）との連携をコーディネート③圏域の発達障害に係る課題の抽出④検討機会の構築（地域連絡会の開催）です。

機関コンサルテーション	地域巡回	関係諸会議への参加機会
57件(前年比-34件)	95件(前年比-48件)	41回(前年比-8回)

※かながわA連携業務は関係諸会議への参加機会に集約されています。

2. 総括

昨年までの主担当を置いた体制から、3名分散型の体制となりましたが全体的に実績はマイナスとなりました。コンサルテーションニーズは、サービス利用中の暴力、暴言、行動の停止、社会的逸脱行為などの行動障害に関する支援依頼の増加傾向はこの数年変わりません。

仕様上、地域の関係機関との協議会は任意開催となりましたが、サービス事業所や相談支援事業所を対象とした実態調査は本年度もを行い、グループホームを主な対象として行いました。この調査結果を次年度の地域巡回やコンサルテーション、機関連携に生かしてまいります。

支援センター風：介護保険・居宅介護支援事業（逗子市指定）

1. 支援事業

自宅において日常生活を営むために必要なサービスを利用できるよう居宅サービス計画を公正中立の立場で作成する介護保険法に基づいた事業です。

① 給付管理実績（ケアマネジャーは給付管理実績に基づき介護報酬を得ます。）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
管理数	35 (-2)	36 (±0)	36 (-1)	39 (±0)	39 (-5)	33 (-7)
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
33 (-7)	34 (-3)	35 (-2)	35 (-2)	34 (-4)	33 (-3)	418 (-37)

② その他

利用者の平均年齢は73.2歳（-0.2歳）、平均介護度は2.8（-0.3）でした。

障害福祉サービスを併用している方は25名（+4名）でした。

2. 総括

通年で給付管理件数は昨年比37件減少しました。入院入所等で利用終了者7名（+4名）に対し、新規利用者が6名（-2名）であり、終了者が通年で昨年度を上回っています。平均年齢や平均介護度は入退院等で年度内において給付管理の有無が生じるケースもある為、令和5年3月時点での数値となります。24名（+4名）の方が障害福祉サービスを併用しており、さらに65歳以下（2号被

保険者)で認知症をはじめとする特定疾病の発症による利用者も15名(+3名)を数え、介護保険サービスと障害者福祉サービス双方の連携したケアマネジメントが当事業所の特徴となっています。昨年に引き続き、地域包括支援センターにおいて対応している困難事例や他機関多職種連携を要す事例、家族全体に複合的課題があるケースを複数支援し、地域ニーズに応えるよう努めてまいりました。

新規利用ケース6名の内、3名が当法人通所施設の利用者及び利用者の親のケアマネジメントであり、利用者個々の支援あるいは世帯への支援に介護保険サービスが不可欠になっていることから潜在的な利用者を多く含む事業と考えられます。

支援センター風：各事業共通

1. 施設管理事業

各事業における事務の効率化のため、相談支援及び介護保険においてクラウドサービスを引き続き利用しました。共有するファイル利用の効率化の為、ローカルネットワーク内に共有フォルダを活用しました。

2. 施設整備事業

- ・人員増に伴い、2階事務室の拡張を行いました。
- ・2階エントランス部分のエアコンを更新しました。

3. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
6/4	地域共生社会と社会福祉の実践	菊池
6/7	からだにやさしい介助入門	吉原
6/18	社会福祉士実習指導者講習会	興野
6/18-9/21	介護支援専門員更新研修	菊池
7/4	発達障害者地域支援マネジャー研修会基礎研修	荒井
7/30	アセスメント技術研修	萩原
9/26	医療的ケア児等支援者養成研修	大野
10/19-11/10	主任相談支援専門員研修	鹿遊
10/21	発達障害の方の支援に対する家族との連携について	興野
10/30	今日からできる支援のコツ-おめでとう研修	興野
11/15	発達障害者地域支援マネジャー研修会応用研修	荒井
11/28-1/16	相談支援従事者現任研修	3名
11/29	苦情解決研修会(実践編)	吉原
12/20	8050問題を考える	萩原
12/20	国立のぞみの園セミナー	吉原
2/16	トラウマインフォームドケア	興野
3/8	逗子市障がい者権利擁護啓発講演会	菊池

【所内研修】

実施日	内容	参加者
4/25-29	虐待防止の基本と実践	8名
5/16-19	ハラスメントの理解と防止について	3名
5/30-6/3	てんかんについて	7名
6/13-14	O J Tの効果的な実践方法	3名
6/20-24	高齢化に伴う変化と身体介護	7名
7/5-6	障がいのある人の働くを考える	7名
2/6-7	主体性・自立性を高める支援	4名
2/13-17	大規模災害と福祉施設	5名
3/3	嘔吐物処理研修	8名

※所内研修 事例検討会 年4回

4. 防災事業

①訓練

- ・ mai!えるしいと合同で、火災避難訓練1回、津波避難訓練1回を行いました。
- ・ 防災備品の点検を行い、防災用品リストの更新及び非常食の追加購入を行いました。

グループホームジャストサイズ（共同生活援助）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 28 名 女性 16 名
 ②年齢構成 27 歳～66 歳（平均年齢 48.1 歳）
 ③障害支援区分（）内は前年比

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	1	5	9	12	17 (+1)	44

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	32	重複障がい（知的、精神）	0
重複障がい（知的、身体）	11	重複障がい（知的、身体、精神）	1
		合計	44

⑤入退所の状況

- 新規利用者 2 名
 退所者 0 名

⑥支援の内容

- 令和 2 年度より引き続き、虐待防止改善計画を踏襲する形で取り組みを行いました。新型コロナウイルス対策としては換気や手指・物理的環境への消毒などに取り組みましたが、令和 4 年度は散発的に新型コロナ陽性者の罹患が発生してしまい、近年で最も影響のあった 1 年となりました。
- 「生活支援の使命」については個別支援計画にも考え方を反映させることで職員の支援に対する考え方の整理に繋がりました。より細かな部分の確認は必要ですが一つの方向性を示す結果となっています。
- 令和 4 年 4 月以降、宿泊勤務者 3 名の採用を行いました。虐待防止の一環である採用時の実習については通所施設での一定期間の研修を経て、ジャストサイズでの実習勤務を行い、その後通常の勤務に入る流れを原則としました。ジャストサイズ堀内第 2、水科については週末の部分的な受入れを開始し、全 8 棟が 365 日稼働となりました。
- 年間を通して食事の工夫などで季節や慣習を体感できるような取り組みについては住居単位で進捗に差はあるものの概ね取り組むことが出来ました。また日々の生活の中で衣服や朝食の一部、出前のメニュー等少ないながらも利用者の「自己選択」の機会を提供することが出来ました。
- 医療連携については通所看護師の兼務による住居の訪問を 6 月より開始し、全 8 棟中 6 棟で定期的な健康管理の取り組みを実施しました。残る 2 棟については体制が整い次第、同様の取り組みを導入していきます。また個別ケースではありますが訪問診療、訪問看護等の契約、介護保険の併用によりグループホームでの生活を継続している方もおり、今後のモデルケースとなっていくことが予想されます。

2. 施設管理事業

- 令和 2 年度より取り組んでいる全常勤で行う職員会議、住居担当の常勤とサビ管、主査、管理者で行う住居会議、非常勤を含む住居単位の支援員会議は今年度も同様の形態で取り組みました。
- 支援記録等の記録全般のデータ化については年度内の導入には至りませんでした。
- 新型コロナウイルスの影響もあり、家族懇談会については実施することが出来ませんでした。

3. 施設整備事業

- ・法令に基づく年2回の消防設備点検を実施しました。
- ・専門の業者による清掃はハウスクリーニングとエアコンクリーニングを実施しました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
9/15-16	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	新井

【所内研修】

実施日	内容	参加者
5/12	行動の原理を理解する。	正職員
6/9	障害者虐待防止の理解と対応	正職員
9/8	食事介助と嚥下機能について	正職員
11/10	高齢知的・発達障害者の生活と変化～入所施設・グループホーム編	正職員
12/8	日本グループホーム学会全国大会動画視聴	正職員
1/12	中間事業報告会動画視聴	正職員

【所内研修（映像配信研修）】

実施日	内容	参加者
随時	利用者一人ひとりの理解ってどうすれば良いのだろう？	正職員、有期
随時	利用者と接する時のマナーってどうすればいいの？	正職員、有期
随時	知的障がいのある方を中心に利用者とのコミュニケーションを学ぶ	正職員、有期

5. 防災事業

- ①訓練 令和4年9月から令和5年3月までの期間中に随時、避難訓練を実施しました。
- ②備品 非常用食料、飲料水を購入しました。

6. 総括

虐待防止の取組みは通常の事業運営においても有効なことが多く、今後も継続的に取り組んでいく必要があります。

令和4年度は8月、9月に新規利用者を1名ずつ受入れ、定住利用者44名での運営となりました。令和4年5月に従来の定住者1名がご逝去されたことを受け、新規定住者1名の募集を計画していましたが1名の受入に対し17名の応募があり、短期入所の男性用居室を1室廃止して2名の受入を行いました。ご利用者、ご家族の高齢化が進む中、グループホームへのニーズにお応え出来ていない現状を再確認することとなりました。

また新たに受入れた利用者の方については生活環境の変化から不安な様子が見て取れる方もおり、生活場面の変化に対する体験の場が短期入所しかないということも今後の課題と思われまます。中期事業計画に位置付けた新たなグループホームの建設と並行して職員の確保及び既存の運営方法の見直しにより今後も逗子葉山での地域生活が継続できるよう努めていきます。

グループホームジャストサイズ（短期入所）

1. 支援事業

ジャストサイズ小坪

① 男女人数 男性 11 名 (-2) 女性 6 名 (±0)

② 年齢構成 19 歳～62 歳

③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	4	6	4	3	17

ジャストサイズ堀内

① 男女人数 男性 4 名 (-3) 女性 9 名 (±0)

② 年齢構成 25 歳～62 歳

③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	2	2	4	3	2	13

2. 総括

前年度に続き新型コロナウイルスの影響を大きく受けた事業となりました。新型コロナウイルス陽性者が頻発した時期は利用の自粛を要請させて頂いた為、年間を通して稼働率は 60%台となりました。またジャストサイズの総括にて触れたとおり、新規グループホーム定住者の受入に際し短期入所の男性用居室を 1 室減としたことで特に男性のご利用者、ご家族の皆様には従来に増して利用しづらい状況となってしまいました。短期入所事業としての機能を十分に発揮できていない部分も感じた一年となりました。

短期入所本来の機能として緊急性の高いニーズへの対応がありますが、令和 4 年度においてはご家族の入院や体調不良を理由とする受け入れは 1 件のみでした。ご本人、ご家族の高齢化による利用ニーズは引き続き増加の傾向にあります。他方で若い世代のご利用も増えてきています。

令和 5 年度については運営方法の見直しを行うことで可能な範囲でご利用希望にお応えできるよう努めていきます。

委員会・研究会

1. 委員会

*虐待防止・身体拘束等適正化委員会（委員長：小林 倫）

新型コロナウイルス感染症の影響で全体での会議は1回のみで開催となりました。各部会については定期的に開催し、障がいのある方の虐待防止に向けた「人権チェックリスト」の内容の検討等を行いました。全体研修については、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、集合研修は中止としました。令和3年度報酬改定に伴う運営基準の改正に対応するため、虐待防止委員会の所掌事項、委員構成の見直し等を行い、虐待防止のための計画づくりや職員への研修実施、虐待防止のチェックとモニタリング等に取り組み、併せて身体拘束等の適正化のための対策についても検討を進めてまいります。

*支援向上委員会（委員長：植草良太）

利用者のアセスメントをより適切に行えることを目指し、既存の法人により開発したアセスメントシートを改定する作業を1年間かけて取り組みました。既存のアセスメントシートは、開発より17年が経過していることから、委員会にて当時の作成プロセス（ICF・AAMRの考え方）や参考文献を確認し、改善点を洗い出す作業を行いました。その後、現在の生活環境にも対応できるよう、アセスメントシートの項目の追加や削除等の作業を行い、アセスメントシートの改訂案が完成しました。次年度においては、主査会で進められている支援関係の各書式等の改訂作業と連携する予定です。

*安全衛生委員会（委員長：鹿遊英樹）

月1回の定例会議はオンラインにて委員会を開催いたしました。

各事業所の感染症対策グッズの確認、新型コロナウイルス・インフルエンザ予防啓発、感染症対策研修、メンタルヘルスケア研修、5S活動として各事業所の視察訪問、改善指示などの取り組みを行いました。感染症対策研修、メンタルヘルス研修は全職員対象に、いずれもオンラインにて実施いたしました。

次年度においても今年度と同様の取組みを継続いたします。必要時には対面での委員会を開催し、法人職員全体の安全衛生の向上を目指してまいります。

*コンプライアンス委員会（委員長：橘 昌邦）

対面での委員会活動に制限がありましたが以下の3つの取組みを行いました。職員行動強化月間は、大項目目標と目標取組みスケジュールを委員内で決定し、小項目取組みは事業所毎としました。

「職員研修」はDVD研修「介護職員のマナー&コンプライアンス向上講座」を昨年度未実施の事業所を対象に行いました。また、サポカレ動画研修「シリーズで学ぶ！新人職員のための基礎知識『コンプライアンス、守れていますか？』」を実施しました。

「改善提案」の取組みは、相談支援事業所の請求チェックシートの一部修正を行いました。

*広報委員会（委員長：吉原智恵子）

「湘南の凧会報」の発行、法人ホームページ・法人案内の更新を行いました。利用者ご家族及び地域への積極的な情報提供をしていく役割の下「湘南の凧会報」は年度内に4号発行し、湘南の凧で働く職員、それぞれの事業所での活動を紹介し情報発信を行いました。

法人ホームページは皆さまに興味を持ってもらえるよう季節ごとで写真をリニューアルするよう取り

組みました。今後も利用者ご家族及び地域の方々へ積極的な情報を提供してまいります。

*感謝デイ実行委員会（委員長：荒井隼人）

令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、感謝デイ開催を中止いたしました。次年度の開催に向けて、マニュアルの作成、備品の確認、整理を行いました。

*研修委員会（委員長：菊池一美）

対面式の研修の開催が可能になってきたことを受け、これまで法人本部総務課が所掌していた接遇研修、介護技術研修の実施し、中間事業報告会・年度末の事業報告会の事務局は法人本部総務課と協働しました。また、法人が抱える課題に対応した研修企画として「食事介助と嚥下機能研修」を地域の医療機関を講師として招きオンラインで開催しました。

2. 研究会

*自閉症研究会（アドバイザー：小林 倫）

法人内における自閉症者支援の在り方の研究と普及を目的として、各事業所から十数名の職員が参加し、全3回の研究会を開催しました。また、今年度はコロナ禍に入ってから初めて、外部講師による対面の研修会を実施することができました。「みのりの里ゆんた」の作野所長を講師にお招きし、「構造化」と「感覚統合」によるハイブリット支援について講義を頂きました。研修後、早速支援現場に応用する事業所もあり有意義な研修会となりました。今後は、月に一度の定期開催を目指し、自閉症者支援に関する学びを深めてまいります。

*高齢化支援研究会（アドバイザー：萩原崇至）

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年2回(令和5年1月17日、2月9日)の開催となりました。2回の研究会ではメンバーが研究会にて学びたい内容の検討等を行ないました。令和5年度は検討された内容を経て、本格的に活動を開始できるよう準備を進めてまいります。

*生活支援研究会（アドバイザー：新井宏二）

令和4年度の研究会は年間の開催予定を立てて臨み、全6回の開催となりました。その中で法人内各事業所の連携に関するアンケートの集計とデータ化を行いました。今後より重要になってくる高齢化、重度化への対応に必要な連携の在り方等について引き続き研究を進めたいと思います。また法人各事業を利用されている在宅の方の状況に関して状況を整理する取組みも同時進行で取り組みました。5年後、10年後に必要な生活支援の在り方について今後も協議・検討を続けていきます。